

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	唐津市立竹木場小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・竹木場小学校の学校教育目標「夢を語って、夢を追う児童生徒の育成」～「継続」「挑戦」「進化」～のもと、高峰中学校校区の4校による合同研修や推進会議を実施し、協力・交流の機会や情報の共有を通して、学力向上、キャリア教育、人権・同和教育など、共に研鑽を積んだ。 ・学力向上については、「唐津の学びスタイル」をもとに、小中連携による研究に添って、単元による学習計画表の活用と授業と連動した家庭学習の工夫に取り組んだ。以前から取り組んでいることを教師間で協議を重ね、学習計画表を活用して単元をひとまとまりにした授業を行ってきた。今後、「唐津の学びスタイル」の各項目を全職員で吟味し、重点項目を設定し、授業改善に取り組んでいく。 ・児童主体のあいさつ運動を実施しており、中学生にならって、立ち止まりあいさつに取り組む児童が増えている。学校行事・児童会においても児童の出番が確保され、自分たちの手で行事を成功させたという達成感を感じさせることができていた。しかし、児童の自主的活動までには至っていない。 ・業務改善については、過度な超過勤務はなく勤務時間についてはほぼ適正であるといえる。ただ、定期的・個人的にみると、取組が十分でないこともあり、各自で自分のライフスタイルを意識して業務を分担していくことが、今年度の課題である。
------------------	---

2 学校教育目標	夢を語って夢を追う児童生徒の育成 「継続」・「挑戦」・「進化」
----------	------------------------------------

3 本年度の重点目標	○中学校区内の学校連携に根ざした校内研究（キャリア教育・学力向上）の推進 ○分かる授業の構築と確かな学力の育成 ○児童会・生徒会活動の活性化 ○業務改善と働き方改革の推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ○主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践	○「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童80％以上 ○「文章の意味が分かるようになった」に対して肯定的な回答をする児童の割合60％以上	・校内研あるいは公開授業で自主的な活動の取り組みを紹介し、全教職員で授業研究会を実施する。 ・「唐津の学びスタイル」を理解し、単元計画を立て、個別最適な学びを実践していく。 ・学習環境や学習環境、家庭学習を見直し、基礎的な学力の向上を目指す。	B	・全学年交流会をし、児童が統合へ期待感をもち、自主的な活動ができる場面が増えてきた。職員間で実施報告をして成果や課題を共有することができた。 ・ラーニングマウンテンを活用し、単元の見直しをもって指導を行った。 ・自分の考えを条件やキーワードをもとに書くことについての児童アンケートでは、肯定的な回答の割合が94％であり、共通実践の成果が出ている。	B	・学校の先生方がしっかり取り組んでいる。今後ともしっかりお願いしたい。 ・タブレットや電子黒板の活用がよくできていることがわかった。学習内容に合った効果的な活用を今後とも考えていってほしい。 ・全国や県の実践調査では、県平均を下まわっている項目もあったが、ラーニングマウンテンという唐津市が進めていることを授業での工夫もよくできているようだ。今後とも学力向上の取組に尽力してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権や道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が80％以上	・挨拶運動等を推進し、児童の良さや頑張りを称賛する。 ・人権集会や道徳科の授業を通して、互いを尊重し合うことのできる児童の育成を図る。 ・全職員共通理解のもと言葉遣いの指導をし、授業中は「さん呼び」の徹底を行う。 ・縦割り班活動を通して、思いやりの心を育てる。	B	・各学年、道徳の授業を通して、他者への思いやりについて学び、異学年でも互いを思いやる態度が少しずつみられた。	A	・お互いがよく知っているので、仲が良い。 ・上級生が下級生のお世話をよくしているようだ。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80％以上	・児童に毎月、生活アンケート(月のこころ)をとり、気になる事例については直ちに聞き取りを行い、いじめの早期発見に努める。 ・保護者やSC、SSWと連携を行い、教育相談体制を充実させる。	A	・毎月、児童にいじめアンケートをとり、生活打合せで情報を共有することで、学校組織として、いじめの早期発見を行い、早期対応を行うことができている。 ・日頃の道徳的な指導の他、「なかよし集会」を実施し児童の人権意識を高めている。不登校児童はいないが、友達同士の言葉かけなど改善していく必要がある。	A	・いじめ等の問題は、小さいうちから対応をしていることの積み重ねが大事である。 ・日頃から、思いやりの心を持つような、学習を続けていってほしい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒65％以上	・「夢を語って夢を追う児童」という学校教育目標に向かって、児童が主体的に活動する場面を設定したり、自主的活動を学校行事や学級活動に取り入れたりするなど、承認する場をより多く設定する。	A	・6年生を送る会は、開校式との関係で実施しなかったが、縦割り班で、それぞれ心のこもったメッセージを書き6年生に送ることができた。 ・開校式に向けて、どの学年も出し物を工夫して考え、一生懸命に練習をしている。	A	・たてわり班などで関わり合う人たちが、認め合えるような集まりであってほしい。そうすることで、意欲が出たり、自信がついてくると思う。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業も含み、運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒65％以上	・一日1時間以上の運動を目標にして、15分休みや昼休みの外遊びを勧める。 ・アンケートを実施して、児童の取り組み状況を把握する。	A	・県主催のスポーツチャレンジに取り組み、エントリ一賞を受賞した。 ・毎日40分以上の外遊びをしている児童は、中間評価では53％であったが、3学期は2学期よりも外遊びをする児童は増えた。	A	・佐賀県1位には、なかなかなれることはない。来年度もよい結果を期待する。また、子どもたちが笑顔になったと聞いて安心した。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90％以上	・給食だよりの発行 ・保健だよりの発行 ・食育資料の提供 ・教科等における食に関する指導の取り組み	A	・1年に2回、学校・生活アンケートを実施することができた。アンケート結果から児童の変容を把握し、課題については、職員と共通理解し、改善に努めた。懇談会を通して家庭に知らせ、協力を得られるように努めた。	A	・子どもたちにアンケートを取ったら、子どもたちに返すことで良い循環になると思う。続けて欲しい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○全職員の時間外勤務時間の平均が45時間以内にしている。	・それぞれでライフスタイルに合う定時退勤日を設定し、徹底する。 ・職員掲示板機能を活用し、連絡会の内容を効果的に伝達する。 ・会議資料をデジタル化することにより、会議準備及び会議時間の短縮をする。 ・業務記録のデジタル化及び簡略化による時間外勤務の適正化	A	・すべての職員が上限を守れている。超過勤務職員には個別に対応した。業務の平準化を図るために、分掌事務の年間一覧表を作って来年度活用する。 ・長期休業を中心に、年休を取得しやすい業務計画をたてることができた。 ・行事後、直ちに来年に向けて修正案を記入することができている。	A	・すべては子どもたちのため。ライフワークバランスを考えながら、メリハリをつけて業務にあたってほしい。 ・メンタルケアはされていると思うが、管理職を中心に推進してほしい。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80％以上	・月1回以上の「生活打合せ」等により、児童の情報共有をして対応する。 ・学期に1回「特別支援教育支援会議」を開催し、学校での様子や保護者の願などを情報共有して対応する。 ・特別支援に関する研修会を学期に1回以上実施する。	A	・小学校部会の際に必ず「気になる子ども」についての共通理解をする時間を持ち、問題が起きたときは、組織として素早く対応することができた。 ・定期的、また必要に応じて教育支援会議を持ち、医療機関につなぐことができた。 ・研修会を夏休みに1回行った。	A	・チームで動いていると聞いて素晴らしいと感じた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○キャリア教育	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒60％以上	・キャリアパスポートの活用 ・スピーチ集会の実施 ・実行委員会での行事運営	B	・「自分の将来の生き方について考えることがあるに肯定的な回答をした児童が75％以上だった。	B	・大人の責任として私たちも、夢を追い続けるような学校、地域にしていきたい。
○特別活動の充実	○児童の主体的活動の活性化	○児童会を中心に学校生活を充実させようと努力していると回答する児童85％以上	・児童会活動による学校行事の実施 ・児童が主体的に取り組む活動の充実	A	・委員会活動では、学校統合後を見据えて再編成した委員会活動を始めている。新委員会では、6年生の補佐を受けながら進んで活動に取り組んでいる。	A	・行事での実行委員活動が活発だったようだ。取り組み始めたことで、引き続き、主体性のある子どもを育てて欲しい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・学校教育目標をもとに、定期的に本校の課題を出し合い、解決に向けて、全職員共通理解のもと、研修を積んだ。 ・学力向上については、本年度もタブレットの活用について研修した。「ラーニングマウンテン」を各担任が意識して取り組んだ。今年度は、教科だけでなく、主体性を高めるために学校行事などでも取り組んだ。続けていくことが最大の課題である。その学校行事等においては、実行委員会形式での指導の手法で、児童に出番と役割を与え、承認することで、達成感や成就感を感じさせることができている。次年度も校内研究にも絡めていく。 ・業務改善については、勤務時間についてはほぼ適正である。教材等は学年や教科のフォルダに保存し、次年度以降に利活用していく。また、年間を通しての校務分掌での業務の一覧表を元に、業務の平準化を図る。 ・統合により、予測以外の問題も出てくると予想する。チーム高峰で望んでいき、地域や保護者とも協力をしていく地盤作りにも取り組んでいく。
--------------------	---